



みなみ風

学校教育目標 人間力を高め、未来にはばたく児童生徒の育成

合言葉 私たちの最上位目標は、子どもの幸せ

学園だより 令和6年3月12日 第34号 みなみ学園義務教育学校

3/11 第7回みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式



最後の学活「みんなありがとう」「これからもよろしく」

門出・強く、高く未来にはばたいてください！

3月11日、みなみ学園の最上級生として様々な場面で「みなみプライド」を示した7名の卒業生の皆さんが、力強く誇り高く新たな世界へ羽ばたきました。今年度も、在校生全員と多くの来賓の方々が参列し、厳粛な雰囲気の中で卒業式を行うことができました。卒業生の皆さんが、堂々とした態度で卒業証書を手にする姿は、とても素晴らしかったです。また、在校生も、卒業を祝う気持ちをいっぱい、立派な態度で式に臨むことができました。特に、最後の全員合唱「旅立ちの日に」では、卒業生とのお別れにふさわしい歌声を響かせ、実に感動的でした。卒業式は、1年で一番大きな行事の一つです。ここでまた、子どもたちの心の成長を感じることができました。

卒業生の最後の学活では、「卒業式で、みんなのお家の人みんな泣いていて、僕たちは、こんなに大切にされているんだ、と思いました。」という話が卒業生からありました。これからも、たくさんの愛情を感じながら感謝の気持ちを持ち、なりたい自分に向かって、努力してほしいと思います。たとえ失敗しても、起き上がり、立ち上がり、歩みを続けてほしいと願っています。

ご卒業、おめでとうございます！





やわらかな光あふれる春の佳き日に、義務教育九年間を修了し、新たな世界へ羽ばたこうとしている7名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生と先生方みんなで、皆さんの卒業をお祝いしたいと思います。また、本日は、笠間市議会議員 安見 貴志 様、学校運営協議会会長 中村 直人 様をはじめ、多くの来賓の皆様にご臨席をいただいております。ありがとうございます。

卒業生の皆さん、皆さんがもうすぐ6年生になり、南中校舎での学びが始まるという5年生の冬に、新型コロナウイルス感染症の流行が始まりました。それから、皆さんは、様々な制約の中で学校生活を送らなければなりません。悔しかったこと、残念だったこと、悲しかったことなどたくさんあったと思います。それでも、皆さんは、持ち前の明るさと行動力で、「何ができるだろう。」と考え、いつも前向きに行動してきましたね。

私が皆さんと初めて出会ったのは、令和3年4月7日。皆さんの後期課程開始式の日です。当然のことですが、皆さんはまだ幼さが残り、制服が大きめで、とてもフレッシュな感じがしました。ただ、皆さんにまとまりと温かさを感じたことも、とてもよく覚えています。

皆さんは、とても上手に7年生になりました。よく思い出すが、部活動に取り組む皆さんの姿です。卓球部の昊楽さん、司さん、哲太さん、梨音さん、敦嗣さん、寧萌さんは、練習中にスマッシュが決まると、ピョンピョン跳びはねて喜びました。私は、皆さんのそんな姿を見るのがとても好きでした。音楽部の快音さんは、先輩とさわやかな音楽を奏で、学校に明るさと潤いを与えましたね。

次の、8年生。後輩ができた皆さんは、とても頼もしくなりました。縦割り班活動や行事、委員会活動などでは、9年生をサポートする重要な役割を担い、活躍しました。

そして、9年生。皆さんは、みなみ学園の最上級生として、1年生から8年生までをしっかりとリードしました。自分たちのことだけでなく、「学校のために」を考えて行動できる皆さん、学校花壇の周辺が汚れていることや蛇口が壊れて廊下が水浸しになっていることなどにすぐ気が付き、進んできれいにしたり片付けたりするなど、自主的な活動ができましたね。

そう、みなさんは、様々な場面で下級生の手本となる行動を示しました。部活動壮行会や児童生徒総会などでの活躍の姿を、後輩たちは憧れと尊敬のまなざしで見つめました。また、みなみスポーツフェスティバルでのみなみソーランやみなみフェスティバルでの合同合唱では、リーダーシップを発揮しながら、仲間と心をつなぎ、一生懸命取り組む姿があり、多くの人に感動を与えました。みなさんの模範となる姿は、後輩たちにも必ず引き継がれていくと確信しています。

これから新たな世界へ羽ばたくみなさんに、大切にしてほしいことを二つ、お話しします。一つ目は、「お家の方々が大切に育ててくださった命を大切にすること」。今日は、3月11日。甚大な被害を与えた東日本大震災発生から、今日でちょうど13年になります。まだ、皆さんは、1歳、2歳でした。そんな小さな皆さんが困らないように、不安にならないように、お家の方は、大切に大切に皆さんのことを、守り育ててきたのです。だから、その命を大切にしてください。そして、もう一つ伝えたいことは、「まだチャンスがある」と希望をもつことです。皆さんは、皆さんがつくる人生の主人公です。たとえ失敗したとしても、起き上がり、立ち上がり、怖くて震えても、一歩踏み出す勇気をもってほしい。そうすることで、今まで見えなかった新しい景色が見えてくるのだと思います。つらい時にはこのクラスのことを思い出し、心の支えにして、歩みを続けてください。

改めまして、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、おめでとうございます。生まれてから15年間、いろいろなことがあったと思います。共に喜んだこと、励ましたこと慰めたこと、叱ったこと。特に、この後期課程の3年間は、悩みも多き多感な時期で、心配の種は尽きなかったことと思います。けれども、子どもたちは保護者の皆様の愛情に支えられ、こんなに立派に成長しました。どうぞこれまでがそうであったように、これからも子どもたちの一番の理解者であり、心の居場所でいていただけたらと思います。

最後になりました。卒業生の皆さん、みなみ学園義務教育学校は皆さんの母校です。新たな世界に向けて、このみなみ学園で過ごした日々を心の糧にして、大きく羽ばたいていってください。皆さんのこれからの、幸多かれとお祈りし、式辞といたします。



第7回みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式 送辞

寒さも和らぎ、うららかな春の香りを感じるようになりました。

今日のこの佳き日に、笠間市立みなみ学園義務教育学校を卒業される7名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

時が経つのは早く、皆さんと過ごした日々は、あっという間に過ぎ去ってしまいました。

思い起こせば、先輩方はいつも先頭に立って私たちを導いてくださいました。

コロナによる制限が解除され、久しぶりの前期課程・後期課程全員でのスポーツフェスティバル。練習時間が少ない中、常にアイデアを出しながら熱心に練習に取り組む先輩方の姿は、頼もしく、とても心強かったです。中でも、みなみソーランでは、縦割り班ごとに細かい振付や、どのようにしたらかっこよく見えるかななどを丁寧に優しく教えてくださいました。本番での全力で踊る先輩方の姿は、誰よりも迫力があり、一人一人が輝きを放っていました。また、閉会式での各団の団長からの思いのこもった言葉は今でも心に残っています。

みなみフェスティバルでは、どうすれば来てくれた方々に楽しんでいただけるかということを考え、おもてなし活動やモニュメント制作の企画をしてくださいました。たくさんの工夫をこらした先輩方のフォトブースは、たくさんの人で大盛況でした。私たちの願いでもあったおもてなし活動ができたことで、前期課程生も保護者の方々もより楽しいみなみフェスティバルになったのだと思います。

また、初めての試みである7～9年生の合同合唱がありました。練習では声量が足りないことや、パートごとの歌声がなかなか揃わないなど、多くの悩みや不安がありました。しかし、どんな時も先輩方は私たちに励ましの言葉やアドバイスをしてくださいました。先輩方の合唱にかける熱い思いを感じられた瞬間でした。

学校生活においては、先輩方は7人皆仲が良く、9年生の教室や廊下からは明るく楽しそうな笑い声がいつも聞こえていました。後輩たちにも優しく思いやりのある先輩方は、他学年と話していても、いつも笑顔を引き出し、あたたかな雰囲気をつくってくださいました。

このように私たちは、学校の中心となって行動する大切さを先輩方の姿から学ぶことができました。たくさんの思い出が詰まった学校行事や何気ない日常生活は、私たちの宝物です。

これから先輩方は、自分の夢を実現するためにそれぞれの道を歩いていくことと思います。その長い道の途中で、苦しいことや大きな壁にぶつかってしまうことがあるかもしれません。そんな時は、このみなみ学園で過ごした時間を思い出してください。きっとどんなことにも負けない勇気が湧いてくることと思います。

先輩方が卒業された後、先輩方から教えていただいたことを胸に、私たちはこのみなみ学園を今よりさらに発展させ、魅力あふれる学校にするために全力で取り組んでいきます。

最後になりましたが、ご卒業される7名の皆さんのご健康とこれからの益々のご活躍をお祈りし、送辞とさせていただきます。



第7回みなみ学園義務教育学校 卒業証書授与式 答辞

肌を刺すような冷たい外気が和らぎ、吹く風にも春の訪れを感じるようになりました。今日この佳き日、私達7名は、みなみ学園義務教育学校第7回卒業生として、ここを巣立ちます。

南小学校と南中学校が統合されたときにはとても大きく見えた9年生。今は自分たちがその立場となり、そして自分たちがいざ卒業するのかなと思うとまだ実感がなく、明日からみなみ学園に登校しないことをとても不思議に感じます。

後期課程での学校生活の始まりとともに、オンライン授業が始まりました。楽しみにしていた行事は短縮化や中止になり、通常登校が始まって給食のときは話せないなど当たり前の学校生活ができなく悲しい思いをしました。しかし、制限のあった学校生活のなかでしたが友達や先輩方などと仲良くなり、楽しい学校生活を送ることができました。

9年生になると日常の生活が戻ってきました。2年ぶりに実施できた全校児童生徒でのみなみスポーツフェスティバル。威風堂々では赤、青、黄のそれぞれの旗を担ぎながら、ゴールに向かって心を一つに走り切りました。秋に行ったみなみフェスティバルでは、各クラスでおもてなし活動を復活させることができました。みんなが楽しめるような工夫をしたり、細かいところまで考えたりして、本番を終えたときには達成感でいっぱいになりました。また、後期課程での合同合唱では最初はまったく声が出せませんが、3学年で朝の時間や学活などの時間を使って練習し、段々と声が出るようになり歌を仕上げていきました。普段7人という少人数で活動している私達にとって、この大人数で行う合同合唱はいい経験になりました。

このように沢山の思い出がつまったみなみ学園での生活。みんなで笑い合うときも一緒に怒られるときも一緒だった9年生7人。みんなで過ごしたこの時間は私の人生の中でとても濃い時間になったと思います。また、一人一人に真剣に向き合ってくださいました先生方。勉強面ではわからないところをわかるまでしっかりと教えてくださいました。生活面でも優しく、真剣に私達と向き合ってくださいました。本当に感謝しています。そして、ここまで一番近い存在で支えて沢山の愛情を注いでくれた家族。今まで沢山の迷惑をかけてしまいました。そしてこれからも迷惑をかけてしまうかもしれません。そんな家族に今一番伝えたい気持ちは感謝の気持ちです。いつもありがとう。これからもよろしくお祈りします。前期課程のみなさん、掃除の時間や昼休みなどに話しかけてくれてありがとう。いつも純粋な笑顔でとても可愛かったです。最後に後期課程の皆さん、部活動や行事、日常生活など沢山関わることができてとても楽しかったです。これからはみなさんがより良いみなみ学園をつくってってください。

最後になりますが、本日お忙しい中、私達のためにお祝いの言葉等を頂いた皆様に感謝を申し上げ、皆様のご健康とみなみ学園のますますのご発展をお祈りし、答辞とさせていただきます。

